

令和 6 年 5 月 28 日

加西市議会議長 丸岡弘満 様

建設経済厚生常任委員会行政視察報告書

委 員 会 建設経済厚生常任委員会
委 員 長 中 右 憲 利

下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

1. 日程

令和 6 年 5 月 8 日（水）～5 月 10 日（金）

2. 視察先

広島県東広島市 NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト 香川県さぬき市
香川県丸亀市

3. 参加者氏名

中右憲利、西脇 親 大前裕也 下江一将 高橋佐代子 高見博道 森田博美
浦川（議会事務局随行）

4. 視察内容等

□広島県東広島市（5 月 8 日（水）14：00～15：30）

ビジネスサポートセンターHi-Biz（ハイビズ）について（別紙詳細）

市議会	奥谷議長
産業部産業振興課	梅次長兼産業振興課長
産業部産業振興課地域産業支援係	宇都宮係長
産業部産業振興課地域産業支援係	飯田主査
議会事務局	金築局次長

□広島県尾道市（民間団体）（5 月 9 日（木）9：30～11：00）

空家等活用推進モデル事業の取組みについて（別紙詳細）

NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト 豊田代表

□香川県さぬき市（5 月 9 日（木）15：00～16：30）

さぬき市民病院の建替えについて

医師確保、患者増に向けた各種取組みについて（詳細別紙）

市議会	真部副議長
さぬき市民病院	石井病院長
さぬき市民病院	宮本看護部長
さぬき市民病院経営管理局	多田局長
さぬき市民病院経営管理局	木村次長兼プロジェクト推進局長
さぬき市民病院経営管理局総務企画課	六車課長
さぬき市民病院経営管理局患者サービス課	忒山課長
議会事務局	十川局長
議会事務局議事課	秋山課長補佐

□香川県丸亀市（5 月 10 日（金）10：00～11：30）

生活困窮者支援事業（あすたねっと）について（別紙詳細）

健康福祉部	谷本部長
健康福祉部福祉課	近藤課長

健康福祉部福祉課
丸亀市社会福祉協議会地域共生社会推進グループ
議会事務局

西山副課長
高尾グループリーダー
宮田主任

5. 所感

各委員の所感は別紙のとおり

広島県東広島市（R6 年 5 月 8 日視察）

視察テーマ：ビジネスサポートセンターHi-Biz（ハイビズ）について

①施設概要

- ・東広島市が設置し、東広島市ビジネスサポート協議会が運営する事業者支援のための公的機関。
- ・公的機関として前例のない支援・成果を上げた「f-Biz」を模範とするBizモデル型支援拠点。
- ・令和5年度までは東広島商工会議所の1部門としてHi-Bizを運営していたが、周辺商工会議所が管轄するエリアの企業からの相談件数が少ないことから、令和6年度に新たに設立した東広島ビジネスサポート協議会に運営を移行。
- ・東広島ビジネスサポート協議会は、東広島市、東広島商工会議所他、周辺町3商工会と市内9金融機関で構成されている。

②Hi-Biz の目的

- ・「お金をかけずに企業の強みを引き出して売上向上につなげる」というBizモデル型支援の理念を基に、事業者向けの相談、機能の強化・充実を図っていくことを目的として、無料で何度でも相談できる伴走型支援拠点として設置。

③Bizモデルの支援手法

- ・「販路開拓」「新商品開発」「新分野支出」の3つの観点から、具体的なアイデアを相談者に提案し、伴走支援していく中小企業支援策。

④運営体制

- ・運営日：月曜日から金曜日まで（土日祝、年末年始など除く）
- ・相談時間：1回につき1時間（無料）
※事前の相談予約申請をもとに相談日時を設定

⑤人員体制

- ・常勤：センター長1名 事務員3名
- ・非常勤：エキスパート2名 ITサポーター1名 デザインサポーター2名
クリエイティブサポーター1名 SNSサポーター1名

⑥支援体制

成果創出のプロセス		常勤 相談 員	エキ スパー ト	サポーター			
フェーズ	テーマ						
見立てる	相談者は事業成長の本質的な課題を見立てる	◎					
	課題解決のために活かす、セールスポイントを特定する	◎					
	売上アップへ向けた戦略の方向性を定める	◎					
仕立てる	光の当て方を工夫し、セールスポイントのオリジナリティを高める	○	◎				
	ターゲットを絞り込み、セールスポイントのオンリーワン要素を抽出する	○	◎				
	打ち出し方、見せ方、伝え方を定めて、具体的なアウトプットを提案する	○	◎				
動かす	具体的なアウトプットの実行と、その制度の向上に伴走する	○		◎	◎	◎	◎

- ・見立てる→方向性決定→仕立てる→進捗確認→動かす→成果確認

⑦運営にかかる経費

	経費区分	事業費	内 訳
1	委託料	62,653,026	人件費：43,721 千円 イベント経費：1,732 千円 フォローアップ経費：3,045 千円 広告等運営費：8,458 千円
2	賃料	2,508,000	209,000 円×12 ヶ月分
3	光熱水費	350,000	電気代：30 万円 上下水道：5 万円
	電信電話料	180,000	プロバイダ料：1.8 万円 光電話代：16.2 万円
	総合計	65,691,026	

- ・令和 6 年度までは 1/2 は国庫補助があったが、来年度以降はなくなるので検討課題となっている。

⑧相談件数

- ・令和 5 年度実績 相談件数：1,644 件 相談事業者数：319 件 新規相談事業者数：152 件
- ・開設累計：908 事業者 延べ 6,891 件
- ・年度別相談件数：令和元年度 124 件 令和 2 年度 1,955 件 令和 3 年度 1,725 件
令和 4 年度 1,443 件 令和 5 年度 1,644 件

⑨相談者及び相談内容（開設日～R6 年 3 月 31 日）

- ・相談業種：サービス 40% 小売・卸売 16% 飲食・宿泊 11% 製造 10% 建設・建築 4%
農林水産 4% 福祉医療 4%
- ・相談の種類：創業 21% 事業全般 17% 販路開拓 15% 売上向上 12% 新商品等開発 10%
集客アップ 9% 情報発信 6%

⑩ミライノ⁺とは

- ・東広島イノベーションラボ ミライノ⁺は、多様な人や団体が幅広く活動するとともに、相互に交流することで、「人」や「機会」の好循環が生まれる場。
- ・3 つの方向性
 1. 創業・起業へ向けた取組み
 2. 社会の課題解決を志向する
 3. 先端技術・学術的関心を高める

⑪ミライノ⁺と Hi-Biz の役割

- ・ミライノ⁺で思い立ちの契機となり、創業意欲を醸成。
- ・Hi-Biz で想いの具体化、事業化を支援、地域機関と協力連携。

広島県尾道市 NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト（R6 年 5 月 9 日視察）

視察テーマ： 空家等活用推進モデル事業の取組みについて

①尾道の空き家を再生

- ・尾道らしい家をひとつでも残したいという思いから、実際にいくつかの空き家を再生している。本職さんの指導のもと、セルフビルドでできる部分はなるべく DIY で行っている。
- ・主な再生例としては、
 1. 旧和泉家別邸（通称尾道ガウディハウス）：職人技のいっぱい詰まった昭和 8（1933）年築の洋館付和風住宅。復元目指して再生中、登録有形文化財。
 2. 北村洋品店：子連れママのための井戸端サロンとして再生。2 階には NPO 法人事務所がある。
 3. あなごのねどこ：商店街に面した町家をゲストハウスに改修。あくびカフェでは様々なイベントを開催
 4. みはらし亭：大正 10（1921）年築の旅館を再生し、平成 28（2016）年にゲストハウスとしてオープン。職人、ボランティアはじめ多くの方々の協力により再生実現、登録有形文化財。

②尾道暮らしを応援

- ・尾道ならではの暮らしを楽しむ人や、空き家を上手に再生させてお店などをされている方を紹介したり、長く住み続けるためのお手伝いをしたいと考えている。
- ・尾道に長く住みたいという方の定住促進にも力を入れている。

③尾道市空き家バンク事業

- ・定住促進のためのメイン事業として尾道市と協働で新たに「尾道市空き家バンク」をスタートさせた。行政だけでは困難な部分を補う定住促進・移住者支援をしていきたいと考えている。
- ・尾道市に移住を希望している方、空き家を探している方々に情報提供を行うだけでなく、旧市街斜面地に古い家を抱えている家主さんに対しても支援をしていけるよう心掛けている。
- ・この仕組みを活かして尾道らしい景観や地域のコミュニティを大事に思う方に来ていただきたいと思っている。
- ・随時、空き家バンク説明会、ガイドツアー等開催。

④再生へ、5 つの柱

☆空家×建築

- ・尾道の旧市街地の家々は時代劇のロケセットのように統一されたものではなく、2 キロ四方の中心市街地に、まるで家の博物館のように各時代の家々が点在している。
- ・繁栄した時代を象徴する町家や土蔵、お茶室や日本庭園のあるお屋敷や洋風建築等、そして山あり海ありの変化の多い地形に合わせて作られた不定形な家や眺望重視の絶景の家、増築を重ねた変形の家、希少な木造 3 階建ての家など、個性的な生活感あふれる尾道らしい家がいっぱい。
- ・そんな尾道建築の面白さや失われつつある職人技などをより多くの人に伝えたいと思う。

☆空家×環境

- ・地球環境のことを考えると、古い家に住み続けることは産業廃棄物や森林伐採の減少にもつながり、重要なエコ活動にもなる。
- ・空き家が放置される要因の一つである不要な家財道具のリユース・リサイクル、廃材や古道具の再利用によって、エコ活動に貢献するだけでなく、レトロな尾道らしい町並みを残していくことにもなる。
- ・二度と新築の建てられない斜面地の更地などは、畑や手作り公園など緑化運動にも努める。

☆空家×コミュニティ

- ・尾道の斜面地や路地裏に点在する多くの空き家は、少子高齢化、地方都市の過疎化、中心市街地の空洞化の象徴となりつつある。
- ・いくら古い建物や景観を守っても、そこに人がいないと魅力的な町とは言えない。次世代が住まなくなった空き家の里親探しや、新しい移住者さんへの暮らしのアドバイス、空き家・空き地を使った世代間の交流、イベント企画など新しいコミュニティづくりのお手伝いもしたいと思う。

☆空家×観光

- ・尾道には多くの方が観光に訪れているが、1日や2日では到底、このディープな町・尾道を知り尽くすことは出来ない。
- ・何度も足繫く通うか、長期滞在することをお勧めする。そこで、空き家を使った短期貸家を、安く長く滞在したい方や尾道暮らしを体験したい方に提供していきたいと思っている。
- ・住めるようにすることが難しい空き家も、趣味のお店や工房など、山手のそぞろ歩きや路地裏探検をもっと面白くするものに再生できるのでは、と思っている。

☆空家×アート

- ・尾道は多くの文人や芸術家に愛されてきた町で、アートと切り離すことは出来ない。これからも尾道から世界に発信してくれるアーティストを育てていけるよう、空き家を美術や文学を学ぶ若者たちの寮やアトリエ、ギャラリー、セミナーハウスなどに活用していければと思っている。
- ・アーティストインレジデンス（芸術家の滞在制作）を尾道に深く浸透させるべく、長期滞在可能な場と制作・発表の場として空き家を活用し続け、アートの仕掛けによって、尾道の町をもっと輝かせていきたい。

⑤イベントの開催

- ・尾道建築塾、尾道まちづくり発表会、現地での蚕の市、尾道空き家再生ピクニック、尾道空き家談義、空き家再生チャリティイベント等、各種イベント行っている。

香川県さぬき市（R6年5月9日視察）

視察テーマ： さぬき市民病院の建替えについて 医師確保、患者増に向けた各種取り組みについて

①さぬき市民病院の現状

【施設】

- ・敷地面積 31,585.65 m² 延床面積 14,884 m² 建築面積 5,327 m²
- ・駐車場 患者用 245 台 職員用 368 台 合計 613 台

【規模・機能】

- ・179 床（一般 175 床・感染症 4 床）
- ・診療科目 23 診療科
内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・血液内科・内分泌代謝内科・腎臓内科・リウマチ科・精神科・心療内科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・放射線科・麻酔科
- ・職員数 正規職員 280 名 会計年度任用職員 109 名 合計 389 名

【財政の状況 令和4年度決算】

- ・収益的収支 病院事業収益 57 億 7,518 万円 病院事業費用 53 億 2,439 万円 純利益 4 億 5,079 万円
※ただし令和5年度は損失が出る見込み
- ・累積欠損金 14 億 2,051 万円 病院事業債残高 23 億 2,975 万円

【患者の状況 令和4年度】

- ・入院患者数 46,478 人（1 日平均 127.3 人） 外来患者数 112,754 人（一日平均 464.0 人）
病床利用率 64.9%（うち地域包括ケア病床 86.8%）救急車受入件数 672 件 手術件数 1,156 件
- ・分娩件数 66 件（うち助産師主導の分娩 62 件）セミオープンシステム利用者数 28 人

②病院建て替えの経緯

【完成12年前 平成11年】

- ・大川総合病院（前身）「増改築基本構想計画」完成
病床数 350 床（一般 184・療養型 42・精神 120・感染 4）延床面積 23,153 m² 総工費 122.9 億円
地上 7 階建 現地建替（一部改築）

【完成6年前 平成17年】

- ・市議会施設建設特別委員会で基本構想（案）を承認
病床数 350 床（0） 延床面積 22,337 m²（▲816 m²）総工費 98.9 億円（▲24 億円）地上 5 階建（▲2 階）
現地建替

【完成5年前 平成18年】市議会施設建設特別委員会

- ・8 月：建設候補地を 5 案とする提案 9 月：建設候補地を 3 案に絞り込む提案
- ・10 月：移転反対グループが嘆願書と移転反対署名簿提出（約 23,000 人）
- ・12 月：市議会施設建設特別委員会 移転反対の請願を協議
- ・12 月：市長方針 建設候補地を現在地周辺とオレンジタウン（志度地区の造成地）の 2 案とすること
病床数を削減すること 平成 20 年度内に決定すること 「続・基本構想」策定に着手

【完成4年前 平成19年】市議会施設建設特別委員会を7回開催

- ・第1回(3月)予算審議 第2回(6月)「続・基本構想」の審議 第3回(8月)「2 候補地審議」第4回(10月)決算審査 第5回(10月)精神科神経科の見直し 第6回(10月)「現在地周辺」を第一候補「一般病床を 200 床」に「精神病棟廃止」を視野に 第7回(11月)配置計画、資金計画等を審議

【完成 2 年前 平成 21 年】市議会特別委員会

- ・ 6 月建設計画（実施設計）進捗状況報告 7 月事業費の見直し（縮減）等審議 12 月医療施設耐震化臨時特例交付金（補助金）⇒市長方針＋当該補助金の取得要件を満たす目的で病床数削減を審議⇒一般病床が 175 床となる。

【完成 平成 23 年】

- ・ 12 月建築工事完工 当初から比べると病床数 350 床⇒179 床 延床面積 23,153 m²⇒14,884 m²
総工事費 122.9 億円⇒64.8 億円

【新病院診療開始 平成 24 年】

- ・ 1 月新病院診療開始～造成・外構工事を経て 11 月駐車場完成⇒グランドオープン

③12 年経過した今

☆よかったこと

1. 現地建替⇒市民の意向・患者負担の軽減・井水の確保
2. 個室、廊下幅等の確保⇒目まぐるしく変化する施設基準に対応
3. 免震構造⇒現実化する震災への対応
4. 可変性を持たせた病棟構成⇒患者ニーズに応える病棟づくり
5. タイルカーペット仕様⇒患者さんに対する安心、安全確保の印象
6. 駐車場⇒全病院の狭隘な状況から大改善

☆反省すべきこと

1. 専用室及び多目的室の不足⇒病棟器材庫・物品書庫・職員仮眠室・面談室・外來說明室（IC 用）等
2. 病棟談話コーナーの仕切りが不十分⇒プライバシー流出の危険性から利用率低下
3. 1 階外来付近の集合トイレ不足⇒来館者から要望多々あり
4. 感染部門への動線⇒完全な動線の分離が必要

④医師確保の方法、医師の働き方の具体的な取組と課題

☆医師の確保

【取組】

1. 香川大学とさぬき市が締結した連携協定に基づき協力関係の強化を図るとともに、徳島大学及び自治医科大学との連携を継続する。
2. 臨床研修病院として、診療科ごとに工夫を凝らした魅力あふれる研修プログラムを作成する。
3. 専攻医（後期研修医）を 3 人以上雇用する体制を維持する。
4. 香川大学等の現役学生に対して、へき地診療所への実地体験を含めた研修内容を常に充実させる。

【課題】

現段階で欠員が生じている消化器内科、循環器内科等の医師については可及的速やかな補充が必要。

☆医師の働き方

【取組】

1. ドクターズブランク（医療に関する高度な知識と医療秘書業務全般に関するスキルを併せ持ち、医師のサポートを行う。たとえば、電子カルテの入力、検査の予約・指示、処方箋の発行、診断書の作成など、医師の事務作業を代行・補助）の配置
2. 特定行為看護師（特定行為は診療の補助であり、看護師が手順書により行う場合には、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされる 38 行為）の育成

【課題】

1. 医師の時間外労働を抑制するためのタスクシフト・シェアの推進と、医師の勤務状況を正確に把握するための勤怠管理システムの導入を急がなければならない。

⑤病床利用率向上の取組

☆病床利用状況の情報共有化

毎朝全職員に、当日の入院患者数を周知することで、タイムリーに空床状況を示し、直入の可否や、入院促進のための情報として発信。また、病棟単位の病床利用状況（新入院、退院、在院日数及び稼働率）を毎日集計し、当該情報を週 1 回全職員に周知することで週単位及び月単位の利用状況を共有化し、適正な病床利用率に努めている。

☆病床会の開催

看護部では、毎朝病床会を開催し、その中で入院患者の症状を踏まえ、一般急性期病床から地域包括ケア病床への転棟についての可否等を検討し、転棟が可能な患者には地域包括ケア病棟に移っていただき、常に急性期患者等の受入れが可能となるよう病床確保に努めている。

☆ベッドコントローラーの配置

看護部に病床管理を行うベッドコントローラー担当職員を配置し、常に適正かつ無駄のない病床管理に努めている。

☆長期入院患者の調整

60 日、90 日といった長期入院患者の状況を把握し、現状の問題点の抽出及び検討を病棟単位で行なうとともに、退院に向けた院内調整を議論する会議を月 1 回開催している。

☆退院日の調整

病床利用状況に余裕がある場合には、自宅復帰にて退院を予定している入院患者のうち、在宅での不安を抱えている患者に対しては、余裕を持った退院調整を行うことで、少しでも安心して退院を迎えていただけるような配慮も状況に応じて行っている。

また、勤務職員数の関係から、土日等の退院を避け、翌稼働日に退院いただけるよう促しているが、これらも結果的には病床利用率の向上につながっていると考えている。

⑥産婦人科関連の取組（さぬき市民病院には産婦人科医師 1 人が在籍）

☆スタッフ

【スタッフ】

副看護師長 1 名（助産師） 助産師 9 名 看護師 2 名 クラーク 1 名 合計 13 名

【資格取得者 研修受講者】

新生児蘇生 A コース B コース 桶谷式乳房管理士 NCRC インストラクター アドバンス助産師
産後ケア実務助産師

☆病床数

4 階東病棟 12 床

☆香川式セミオープンシステム

- ・さぬき市民病院と香川大学医学部付属病院（以下、大学）が提携し、香川式セミオープンシステムが成り立っている。
- ・出産予定日が決定したら、大学で初期検査を行い、それ以降の妊婦健診はさぬき市民病院で行う。
- ・妊娠 20 週、30 週の健診は大学の医師がスクリーニング検査を行う。
- ・妊娠 33 週～34 週で大学へ転院し出産、出産後はさぬき市民病院へ帰院する。

☆院内助産（助産師さんが主体となる分娩 大学病院と提携）

- ・院内助産ガイドラインに基づき、さぬき市民病院でのガイドラインを作成し、院内助産を行っている。
- ・院内助産出産数の推移
令和2年度 5（経陰 5、帝切 0） 令和3年度 30（経陰 27、帝切 3） 令和4年度 66（経陰 62、帝切 4）
令和5年度 42（経陰 41、帝切 1）

☆産後ケア事業

- ・市町との産後ケア事業契約締結
平成29年4月～さぬき市 令和元年4月～東かがわ市 令和5年4月～三木町
- ・産後ケア利用者数
令和2年 3名 令和3年 1名 令和4年 0名 令和5年 3名 令和6年 8名

【産後ケア事業の種類とケアの内容】

- ・短期入所（ショーステイ）型
利用期間は7日以内、分割利用も可 母親の身体的ケア 保健指導 休息 育児手技についての具体的な指導と相談
- ・通所（デイサービス）型（個別）
利用期間は7日以内、ショートと組み合わせて利用も可 母親の身体的ケア 保健指導 休息
- ・居宅訪問（アウトリーチ）型
利用目的の指導、ケアができる時間を確保する さぬき市民病院より往復2時間以内に居住している事 自宅にある物品を用いた授乳や沐浴指導 休息

香川県丸亀市（R6 年 5 月 10 日視察）

視察テーマ： 生活困窮者支援事業「あすたねっと」について

①丸亀市における生活困窮者自立支援法に基づく事業

☆自立相談支援事業（住居確保給付金相談業務含む）〈必須事業〉

事業内容：生活困窮者に対し、就労その他の自立に関する相談支援、事業利用のためのプラン作成。

委 託 先：丸亀市社会福祉協議会（あすたねっと）

☆家計改善支援事業〈任意事業〉

事業内容：家計に関する相談、家計管理に関する指導、貸付のあっせん等。

委 託 先：丸亀市社会福祉協議会（あすたねっと）

☆就労準備支援事業〈任意事業〉

事業内容：直ちに就労が困難な方に一般就労に向けた支援や就労機会の提供。

委 託 先：萬象園 さぬき自立支援ネットワーク

☆生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援事業〈任意事業〉

事業内容：子どもの学習支援をはじめ、日常的な生活習慣、仲間との出会い活動ができる居場所づくり等。

委 託 先：丸亀市福祉事業団

②事業導入までの経緯

- ・生活保護受給世帯が増加傾向にあり、生活保護に陥る前段の生活困窮者を支援するための制度（住宅手当・住宅支援給付・絆再生事業）の利用者も多かったため、生活困窮者の自立に向けた制度の検討を行っていた。
- ・平成 27 年 4 月 1 日から全国一斉に生活困窮者自立支援法に基づく事業がスタートすることが決定していたため、「トップダウン方式」で平成 25 年度よりモデル事業を受託し、補助金を活用して実施体制をいち早く整備し、平成 27 年度より本格始動を開始した。
- ・また、必須事業だけでなく、問題解決のためのつなぎ先や支援制度を確保し、「貧困の連鎖」等を断ち切るための任意事業も積極的に行うこととした。令和 6 年度で、本格始動となってから 10 年目の節目の年となっている。

③生活困窮者自立支援事業（丸亀市自立相談センターあすたねっと）

- ・丸亀市自立相談センターあすたねっとでは、複合的な課題を抱える世帯に対して、自立相談支援事業、家計改善支援事業及び貸付事業（特例貸付事業）を実施し、就労準備支援事業、学習支援事業、香川おもいやりネットワーク事業などと連携しながら、それぞれのニーズに合った支援を提供している。
- ・あすたねっと
生活困窮者自立支援事業：自立相談支援事業 家計改善支援事業 住居確保給付金相談窓口
食糧支援・物資支援事業：緊急支援物資支給
金銭貸付事業：助け合い金庫貸付事業 生活福祉貸付事業 特例貸付債権管理事務
弁護士無料相談事業：丸亀市無料法律相談事業
その他相談支援業務に関すること

④自立相談支援事業相談受付状況（令和 5 年度）

☆相談件数及び年齢別、性別相談割合

- ・令和 5 年度の新規相談者数は 110 人、新規相談者数は減少傾向にあるが、借金や家賃の未納などの経済

的困窮を抱える相談者が多くみられる。コロナ過での相談者は 20 代から 40 代が中心だったが、年齢別の偏りは縮小傾向。依然として 40 代の相談者が多く、団塊世代の相談割合も増加している。

- ・性別を問わず 40 代の相談者が多く、次いで男性は 50 代、女性は 70 代が多い結果となっている。50 代男性は、15 人中 12 人が無職や求職中のため収入がない方で、70 代女性は 15 人全員が就労・年金収入ありだが半数が病気を抱えていた。いずれも食糧支援とともにハローワーク・福祉課・包括支援センター等と情報共有し、支援を行った。

☆緊急性

- ・食料・住まいを併せた緊急支援件数は過去最高となった。食料支援ではすぐに食べられる缶詰やレトルト食品等を提供し、住まいの支援では、不動産業者やホームレス支援団体、住み込み就労可能な事業者の紹介などを行った。

☆相談内容

- ・相談内容は、総数 449 件中①仕事 156 件 ②健康 89 件 ③家族の問題 87 件 ④債務 73 件 ⑤住居 37 件の順となった。相談時点での就労中の方の割合は年々減少し、就労意欲なしを含めた就職活動困難な方が増加傾向となっている。

⑤家計改善支援事業及び住居確保給付金相談

☆家計改善事業相談状況

- ・収入があるにもかかわらず、税金滞納や借金返済などで月々の収支が合わない世帯に対し、月一回を目途に来所してもらい、レシートや家計簿を本人と一緒に確認して少しでも家計が改善するよう助言。
- ・また家計再建のため、弁護士の協力をいただき、債務整理や自己破産などの手続きの支援を行った。

☆住居確保給付金相談

- ・離職などにより住居を失った方、または失うおそれの高い方に対し、就職に向けた活動をする等を条件に、一定期間（原則 3 ヶ月※延長は 2 回までの最大 9 ヶ月）、家賃相当額を丸亀市が給付する制度利用のための相談支援を行った。

⑥子ども食堂・居場所づくりネットワーク事業

- ・コロナ禍による影響や経済的な事情により子供が社会的孤立に陥らないよう、安心して過ごすことのできる子ども食堂や居場所づくりを実施している 15 団体について、事業の啓発やネットワーク会議の開催、情報提供に取り組んでいる。
- ・資金助成やフードバンク活動、応援企業の獲得など、こども食堂の居場所活動の支援を奨め、必要に応じて行政機関等と連携を図ることが出来るよう努めている。

【子ども食堂】

団 体 名	地 区	開 催 日	R5 年開催回数
まるがめ子ども食堂 Sunny	飯山町	不定期	10
みらスタ☆カフェ	城西町	毎月第 4 土曜日	12
ネムの木 子ども食堂まるがめ	川西町	毎週水曜日	49
うみそら食堂 IYASAKA	城乾町	毎週水曜日	7
秋寅にじいろ食堂	城乾町	毎月第 2 土曜日	12
もぐもぐカフェ	川西町	毎週金曜日	73
「どきどき食堂」つ☆な☆ご	土器町	毎月第 4 土・日曜日	23
うみそら食堂	城乾町	毎週月・木曜日	75
かめやま食堂	城南町	月 1 回	10

【広島県東広島市】 ビジネスサポートセンターHi-Biz について

- ・「お金をかけずに企業の強みを引き出して売上向上につなげる」というビズモデル型支援の理念をもとに、事業者向けの相談、機能強化・充実を図っていくことを目的として、何度でも無料で相談できる伴走型支援拠点。
- ・東広島ビジネスサポート協議会として東広島市、東広島商工会議所他、周辺町3商工会議所と市内9金融機関で構成されている。
- ・起業・創業、販路開拓、売上向上、新商品開発等様々な相談に無料で何度でも対応していただけるのは、これから事業を立ち上げようとする人、及び問題を抱える既存の中小企業としては大変心強いと思う。
- ・非常勤ではあるが、各分野の専門家の指導助言を受けながら、見立て→方向性決定→仕立て→進捗確認→動かす→成果確認という段階を経て目に見える成果を得ていくという仕組みは事業者にとって大変手厚く、ものづくりのまち加西市にもそういう仕組みがあってもいいと思った。
- ・だが、年間の運営費が令和6年度で6500万円以上となっていて、令和6年度までは1/2は国庫補助があったが来年度以降なくなるので、検討課題となっている。
- ・Hi-Bizの他にミライノ+という多様な人や団体が幅広く交流するとともに、相互に交流することで「人」や「機会」の好循環が生まれる場を作っている。その方向性は①創業・起業に向けた取組み ②社会の課題解決を志向する ③先端技術・学術的関心を高めるというもの。
- ・ミライノ+とHi-Bizの関係は、①ミライノ+で思い立ちの契機となり、創業意欲を醸成。
②Hi-Bizで想いの具体化、事業化を支援、地域機関と連携協力。となっており、いい連携、循環を形成していると思う。

【NPO法人尾道空き家再生プロジェクト】 空家等活用推進モデル事業の取組みについて

- ・目の前に海があって、それに沿って商店街がある、すぐ背後に丘陵地があってその斜面に古い家が多く建っている。道は狭く斜面の家に行くには狭く急な階段を徒歩で登っていくしかない。
- ・趣のあるいい町だが、どんどん空き家も多くなって住む人も少なくなっているという現状。
- ・お茶室や日本庭園のあるお屋敷や洋風建築等、山あり海ありの変化の多い地形に合わせて作られた不定形な家や眺望重視の絶景の家、増築を重ねた変形の家、希少な木造3階建ての家など、個性的で生活感あふれる家が多くあり、尾道らしい雰囲気を残したいという思いがよくわかる。
- ・定住促進のためのメイン事業として尾道市と協働で新たに「尾道市空き家バンク」をスタートさせた。行政だけでは困難な部分を補う定住促進・移住者支援をしている。
- ・尾道市に移住を希望している方、空き家を探している方々に情報提供を行うだけでなく、旧市街斜面地に古い家を抱えている家主さんに対しても支援をしてきたいとのこと。
- ・加西市も今空き家活用件数がどんどん伸びている状況。若い家族が移住するには空き家を買ってリフォームしたり、借りたりするのが一番コストパフォーマンスが高いと思う。
- ・空き家が放置されて危険空き家になる前に、空き家バンクに登録していただいて活用してもらうのが、若い家族のためにも、環境のためにも、コミュニティのためにもいいと思う。最近は田舎でもよそ者が入ってくることを嫌うという傾向が薄れてきている。
- ・加西市も民間の力も借りながら、さらなる空き家活用の仕組みを構築していただければと思う。

【香川県さぬき市】 さぬき市民病院の建替え等について

医師確保、患者増に向けた各種取組みについて

- ・さぬき市民病院は12年前の平成24年にオープンしている。完成は平成23年、その9年前に平成の大合併で「さぬき市」が発足。同時に市議会施設建設特別委員会が設置された。
- ・平成17年には特別委員会で基本構想案を承認、平成18年には建設候補地を3案に絞り込むことを提案している。同年には移転反対の嘆願書が23,000人の署名とともに提出された。
- ・平成18年特別委員会で移転反対の請願を協議、平成19年には特別委員会を7回開催し、建設地は「現在地周辺」を第一候補に、「一般病床を200床に」、「精神病棟廃止」を提案した。
- ・平成21年には特別委員会で「建設計画進捗状況」を報告、事業費の見直し（縮減）等審議、さらなる病床数削減を審議し、一般病床は175床となる。
- ・以上のように市議会施設建設特別委員会が新病院建設に大きな役割を果たしている、その成果として多くの市民が望む現地建替、駐車場の大幅改善、病床数の大幅削減及び総事業費のほぼ半減を実現している。加西市は今色々な箱モノをたてようとしているが、もう少し丁寧に市民の意見を聞きながら進めてほしいと思った。
- ・どことも産婦人科医師の不足でさぬき市民病院も一時産婦人科を閉鎖していたが、今は産婦人科医を1名確保し、助産師主体で分娩を行う院内助産を実施している。令和3年度は33件の分娩、令和4年度は66件、令和5年度は42件、今まで特にトラブルはなかったという。
- ・助産師の数が少なくなって、今は経産婦に限っているということだった。分娩室もベッドに畳が敷かれていたり、色々な工夫がされていた。
- ・香川大学医学部附属病院と連携し、何かトラブルがあるときすぐに対応できるようになっており、またセミオープンシステムといって大学病院と提携し、分娩前に大学病院に移ってそこで分娩をするが、通常の検査等はさぬき市民病院で行うといった形も選択できる。
- ・加西病院も産婦人科の需要が多いので、そういう形も研究して取り入れてもいいのではと思う。

【香川県丸亀市】 生活困窮者支援事業「あすたねっと」について

- ・近年生活保護に陥る人が多くなって、そこに至るまでに生活困窮者に対し、就労など自立に関する相談支援、自立に至るまでのプラン作成をして生活を立て直そうとする事業。
- ・「あすたねっと」は複合的な課題を抱える世帯に対して、自立相談支援事業、家計改善支援事業及び貸付業務を実施し、就労準備支援事業、学習支援事業等それぞれのニーズに合った支援を提供している。
- ・様々な市民の困りごとに一つの窓口で対応し、プランをたて、他の組織・弁護士などの専門家とも連携して自立に至るまで伴走するという事業を実施している丸亀市は本当に市民に優しく、いいお金の使い方をしていると思った。
- ・また、経済的事情から子どもが社会的孤立に陥らないよう、子ども食堂や居場所づくりを実施している15団体について、事業の啓発やネットワーク会議の開催、情報提供に取り組んでいる。
- ・資金助成やフードバンク活動、応援企業の獲得など子ども食堂や子どもの居場所活動の支援を奨め、必要に応じて行政機関等と連携を図ることが出来るようにしている。
- ・子ども食堂、子供の居場所づくり活動全体がネットワークでつながっていて、様々な支援や助成を受けることが出来る仕組みができていているというところが大変参考になるのではと思う。
- ・丸亀市社協は商店街の空き店舗を利用して、子どもから高齢者、障がい者を抱える方、ボランテ

ィア団体等が気軽に集える場を運営している、これもいい取り組みだと思う。

「所感」 西脇 親

【広島県東広島市】 ビジネスサポート「Hi-Biz」について

Biz モデル型支援の理念で、令和 5 年度では、相談件数が 1,644 件、相談事業 319 件、新規相談事業者数 152 件と高い実績をあげられている。運営費の 1/2 は国庫補助であるが、エキスパート、IT 等の各分野のサポーターが非常勤という体制で、専門的な経営相談、起業・創業支援が具体的に行われており、行政や商工会議所だけでは成し得ない総合的な相談・支援、取り組みは参考にしたい。

【広島県尾道市】 空き家等活用推進モデル事業の取り組みについて

空き家×〇〇 単なる空き家の DIY ではない。「×」に続く「建築・環境・コミュニティ・観光・アート」の 5 つのコンセプトがある。尾道は坂のまち、オシャレなまちのイメージが強いが、一方で、500 以上の空き家、空き店舗が点在し、多くは長年の放置により廃屋化してきているのが課題であった。2008 年に立ち上げ、市の空き家バンク事業の受託、そして現在に至っているが、NPO 法人尾道空き家再生プロジェクト・豊田代表理事の尾道への熱い思いがなければ成しえなかった事であり、蚤の市、建築塾、ワークショップ等による地域住民や学生を巻き込んだ成功事例である。負の遺産ともなる空き家は、古い・不便＝悪いではなく、それを強みに再生することで人がつながり、町の魅力をつくり出しているのではないかと思う。地域資源に磨きをかけ、その町ならではの新たな価値観で地域再生をしていく事の重要性を痛感した。

【香川県さぬき市】 さぬき市民病院の建て替えについて

医師確保、患者増に向けた各種取り組みについて

病床は 350 床の当初の計画から一般 175 床感染症 4 床に、現地建替から現在地周辺での建替へと 10 年余りの年月を経て、平成 24 年に完成という加西市と類似した背景がある。「守る・つなぐ・進化する」が、さぬき市民病院の経営強化プランで誓った目指すべき病院像である。それを肌で感じたのが、病院内の雰囲気、職員間のつながり、医療職と事務職の垣根のない関係であり、病院職員の自院への強い誇りと愛着、強い使命感であった。事務職が病院経営を支える真のキーパーソンであるというのが私の持論であるが、プロパー的な職員が多いということが強みであると感じた。経営状況の現状が的確に把握されているとともに、経営指標への分析能力の高さが際立っている。

また、院内助産システムでは、助産師でもある副看護師長以下 9 名の助産師、2 名の看護師というスタッフで産婦に寄り添った分娩と産後ケアが行われており、加西市においても取り入れる参考となる取り組みであった。

【香川県丸亀市】 生活困窮者支援事業（あすたねっと）について

市からの受託事業であるものの、社協が主体的となり、熱い使命感を持って事業に取り組んでいる姿勢が伺えた。何よりも社協職員の能力が高く、相談者に寄り添った継続的支援、問題解決は市民の安心感につながっている。

また、市の福祉部門をはじめとする関係各課、関係者との密接な連携が築かれており、定期的な支援調整会議の実施等は、加西市も是非とも実践するべきと思われる。

「所感」 大前 裕也

1 【広島県東広島市】 ビジネスサポート「Hi-Biz」について

視察場所は東広島市、市役所本館

今回の視察の目的は東広島市が実施している。Hi-Biz の目的について行政視察を行い、東広島市産業部産業振興課の行政としての取り組みについて説明を受けました。概要については、Hi-Biz モデルの支援手法の説明を受けました。柱は3つあり、販路開拓、商品開発、新分野進出。これが大きな柱です。

3つの観点から、具体的なアイデアを相談者に提案し、伴走支援をしていく中小企業支援策体制について、説明を受けました。令和5年度の実績報告でもかなりの成果・実績を出しています。ハイビスが地域機関と連携して具体化をサポートしている新しい取り組みで、

私はこういう役割の説明を受けて感銘しました。東広島商工会議所が東広島市と地域金融機関と連携を図り、公的支援機関とも連携することで、幅広く中小企業を支援していると思います。また、今後起業を考えておられる事業者に対しても手厚くサポートをしていると聞いて素晴らしいなと思いました。

支援事例についても説明を受け、新しい取り組みと感じました。また、イベント授業については、積極的にセミナーを開催し、確実にHi-Biz の相談支援を実施した事業所のハンドメイド商品やフード、スイーツなどの新商品、マルシェ限定商品の販売も行い、事業所の認知度向上と商品の販売促進につながる狙いで開催していることを教わりました。

我が加西市でも同様に生き残りをかけ、今回教わったHi-Biz サポートシステムを取り入れても良いと思います。市の中小企業の新たな取り組みとして参考にしていただきたいと思います。Hi-Biz モデルの支援手法についていろいろ勉強させていただきました。これからどこまで加西市が新分野の取り組みが進むか不透明ですが、いろいろなことを勉強し考え、具体的なアイデアで中小企業支援策を打ち出していきたいと思います。

2 【広島県尾道市】 空家等活用推進モデル事業の取り組みについて

尾道市は風光明媚な土地柄で大変坂が多いです。今回その尾道市で、坂の上にある空き家が尾道市に空き家バンクとして登録がされ、その空き家を NPO がリフォーム回収し、新たな住まいとして利用をしていくという取り組みをしております。また、尾道市空き家再生プロジェクトとして、NPO 法人と協力することで、空き家を生まれ変わらせていく取り組みをしております。空き家の建築リフォーム、環境作り、またコミュニティー、アート、観光の場として空き家を再利用しています。そのため、移住者も増え、また再生した空家の民宿も運営しておられました。業務をする際、または解体をする際は道が狭いために、作業車が現地まで入っていかないので、古いものを再利用しつつも、

蚤の市等をその空き家で開催し、人も呼び込めると言う画期的なアイデアで街を再生しています。

尾道市は、住むには大変交通手段が大変ですが、場所柄大変人気な場所です。再生プロジェクトを行うために、市民、団体、行政、所有者が一体となり、空き家再生プロジェクト行っておると感じました。現在もこれからも尾道のまちづくりは大変興味深いものがあります。私も過去、建設建築リフォームの会社を立ち上げ、実際に街のリフォームをしていました。そういう観点から、尾道市の空き家再生プロジェクトには、大変興味があります。

我が加西市でも空き家問題については、大変深刻な問題です。テーマを決め、尾道市のように空き家再生プロジェクトを実施したいと思います。

3 【香川県さぬき市】 さぬき市民病院の建て替え、医師確保、患者増に向けた各種取り組みについて

最初に新病院は大変綺麗で立派でした、またそこで働く先生及び看護師さん、事務方の人間の方も大変優秀で、実力のある優秀なスタッフが揃っています。中でも、診療科目は、産婦人科に特化し、病院設備にしろ、医師、看護婦はもちろん、十分に経験を踏まえ、分娩業務に大変前向きに取り組んでおられます。また、病院独自の手法で、看護師さんがチームを組み分娩を担当しています。妊婦の皆さんにとっては、大変心強く、安心して出産ができる体制が整備されています。

しかし問題は、やはり人材不足、医師看護師不足。現在を取り巻く環境は大変厳しいものがあります。現在は、病院といえども、生き残りをかけた熾烈な運営状況の中、各市町でも苦勞して病院運営を図っていると思います。昔を言うと、病院は絶対に潰れない。そのようなジンクスがありましたが、現在ではそのジンクスはありません。わが加西市でも市民病院の建て替えを控えておりますが、よほど、性根を据え、ことに当たらないと加西市民の皆さんが病院にかかれないう状況が今後は発生すると思います。そのためにも、行政、市民の間で十分話し合いを持ち、現在の施設を利用し、耐震補強し、また 100 年安心して病院施設を使えるようにするか、新しく場所を決め、新病院を建設するか、この議論は尽きないと思います。

同時に、医師不足が深刻ですので、本腰を入れ話し合いを持って病院としての将来の展望を図れるような決定をしないと、存続自体が危ぶまれます。今回行政視察とした、さぬき市民病院は、いろんな問題を克服し、素晴らしい新病院を経営しております。私に関われるとすれば、病院建築の事につき相談に乗りたいと思います。

4 【香川県丸亀市】 生活困窮者支援事業（あすたねっと）について

丸亀市における生活困窮者自立支援事業実施状況について説明を受けました。市のテーマとしては優しさと笑顔が広がるコミュニティ、地域住民の支える愛。丸亀市は、あ

すたねっとを通じて、市民に相談を呼びかけています。生活に困っている、働きたくても働けない、

仕事を辞めて家賃が払えない、将来の不安などといった、相談者ごとに様々で複雑な事情が混在するお困り事に対して、丸亀市行政区で相談に乗り、各自のニーズにあった支援を選択し、実施されています。福祉課のスタッフも大変優秀で、対応には愛があります。

丸亀市民は丸亀市行政区の個別相談を積極的に受け、問題解決を図っています。市の支援は一律的なものであれば、なかなか自立支援は難しいと思いますが、丸亀市の職員は寄り添い、すべての相談に乗っていると思います。またそういう実績についても今回の行政視察で説明を受けました。丸亀市も同様に空家が増え、空家問題に対しても取り組んでいるので、自立支援を相談する施設は空家を利用しています。丸亀市は、ボランティアさんをたくさん募集し、丸亀市、社会福祉協議会、地域共生社会推進グループと一緒に、様々なボランティア団体、福祉施設、地域活動等積極的に行っています。社会福祉活動に対して、丸亀市は、官民が協力し、福祉の街をつくっています。その活動については大変暖かく愛があります。我が加西市の福祉についても、大変見習うところがあります。大変勉強になる丸亀市の行政視察でした。

「所感」 下江 一将

【広島県東広島市】ビジネスサポート「Hi-Biz」について

お金をかけずに企業の強みを引き出して売上の向上に繋げるという理念の基に無料で何度でも相談できることは頼りやすく、相談者にとって有り難い内容だと感じた。Hi-Bizは売上をあげるための具体的なアイデアを提案し、相談者が具現化に向けて行動を起こしていく。理念やその仕組みの背景には「企業の自力を育てていく」という考えを大切にしていると伺った。一過性の支援ではなく、企業が持続することを考えられた上での取組みに強い熱意を感じた。人員については各スキルに応じて選考された方々で体制が築かれており、その中でもセンター長は全国で募集をかけ、多数の応募の中から選ばれていた。これだけの体制を築くには、それなりの報酬と人材が必要だと感じた。

私のところには個人事業や小規模で起業を考える方からの相談があり、口を揃えて仰るのは「どこに相談しに行ったら良いのか分からない。」ということである。市役所や商工会議所でも窓口はあるが、求められているのは「その方に合った起業の仕方や経営方法を寄り添いながら支援できる場所」であると考えます。本市にもワーキングスペースができたことで起業希望者や事業者の交流の機会が出来はじめていると認識しているが、さらにその先の売上をあげていける伴走型支援の必要性も訴えていく考えがある。これらの取組みによって若者が働きたくなる魅力的な環境（職場）を整備していく必要がある。

【広島県尾道市】空き家等活用推進モデル事業の取組みについて

2008年に尾道空き家再生プロジェクトを設立されて、16年も継続されており、「コミュニティ・暮らしを守っていききたい。」と、まずは現在の代表が個人で空き家の再生を始められている。空き家の再生は元々の建物の特性やその素材を活かしつつ、現代の用途に合った空間を提供されている。これにより、古い街並みの魅力を保ちながら、若い世代や新しい住民を呼び込むことに成功している。

さらに、プロジェクトは地域住民との協働を重視しており、ワークショップやイベントを通じて住民同士の交流を促進し、新しいコミュニティを形成している。また移住者が地元の方々と共に地域課題に取り組む姿勢は、地域社会の一体感を高めるとともに、新たな経済活動の創出にも寄与していると感じた。このように、多面的な視点から地域再生を推進する姿勢には多くの学びがあった。

私は7年前にも尾道空き家再生プロジェクトの取組みについて現地視察をして話を伺っており、その当時と比べて本市でも空き家や空き店舗が活用されたモデルは増えたと認識している。そういった空き物件の活用の仕方を魅力として発信することで他に取組みたい方が増え、さらに空き物件の活用に関がると考える。モデルケースとそこで利用された補助メニューをセットで紹介するなどの取組みを提案していきたいと考え

ている。

【香川県さぬき市】さぬき市民病院の建て替えについて

医師確保・患者増に向けた各種取組みについて

さぬき市では市議会施設建設特別委員会が設置された後に委員会で整備基本構想（案）が承認され、その後に建設候補地が初めは5カ所提案されている。なぜ必要なのか、何が必要なのか、どのように体制を築くのかを示された上で候補地が検討されていた。これにより、場所を選定するための明確な基準ができ、説明や議論が効果的に行えると考ええる。

また、さぬき市民病院を検討していく過程で「市民の意向を反映したこと」、「患者ニーズに応える病棟づくりに取り組んだこと」は完成して12年が経過した今でも良かったことであると説明があった。一方で専用室及び多目的室、集合トイレの不足など反省すべきこともあるとのことであった。

本市においては令和6年度に基本構想・基本計画の策定を予定しているが、すでに候補地は限定的に示されており、市民からも「その場所で良いのか。」という意見が出てきている。本議会でも設置している新病院建設特別委員会でも基本構想や計画、候補地等を丁寧に協議しながら不足がないように話を前に進めていくことが市民の理解を得るためにも必要だと考える。

【香川県丸亀市】生活困窮者支援事業（あすたねっと）について

生活困窮者の相談内容について細かく数字に落とし込まれており、個々の困窮者の状況に応じてカスタマイズされた支援プランを提供していることが印象的であった。就労支援ではあすたねっと、ハローワークと丸亀就労支援センターの3社が連携し、若年者から高齢者まで支援している。また、家計支援は本人の自覚がないと改善は難しいとしながらも相談者の抱えている課題に対して丁寧な聞き取りを心がけ、月ごとの家計収入を見直す、細やかな支援体制を整えている。

本市においても包括的かつ連携型の支援体制を整備し、生活困窮者の自立支援を強化することが求められると強く感じた。そして、地域社会全体で支援を行う体制の構築を目指すべきだと考える。

子ども食堂・居場所づくりネットワークについては取組みを実施している団体でネットワーク会議を立ち上げ、専用のホームページを用いて活動が見える化されている。また、取組みへの参加者、支援者、運営者を募っている。これにより行政も力を入れて取り組んでいることが伝わり、さらなる認知拡大・支援体制の構築に繋がると感じた。

本市においても各取組みと行政が連携をはかり、地域全体での取組みとしてPRしていく必要があると考える。

「所感」 高橋佐代子

【東広島市】ビジネスサポートセンターHi-Biz（ハイビズ）について

業種に関わらず様々な中小企業・個人事業者に売り上げアップなどに関するアドバイスを無料で行う経営相談所。東広島市が設置し、東広島市ビジネスサポート協議会が運営する、公的な経営支援拠点。東広島市ビジネスサポート協議会は、これまでHI-BIZの運営を担ってきた東広島商工会を加え、東広島市内3つの商工会、更に東広島市内に拠点を持つ9つの金融機関によって構成され、東広島市産業振興課内に事務局を設置して運営をしている。人員体制としては、センター長1名、事務員3名のほか非常勤職員7名体制。センター長は公募で150名ほどあったとのこと。月100万円、年俸1200万円。6年度予算は65691千円。5年度の相談件数は延べ6891件。支援事例などを聞き参考になった。

【尾道市】空き家等活用推進モデル事業の取り組みについて

少子高齢化や人口減少が進み、隣接する自治体と比較しても人口当たりの空き家棟数が多くなっていく中、平成27年度に実施した空き家等の実態調査では、空き家等7353件中、半数を超える3907件が利用可能と判定された。この利用可能な空き家等地域資源としてとらえ、「滞在体験施設、交流施設、体験学習施設、創作活動施設または文化施設等」として新たに活用する空き家等を、地域活性化の核となる新しい拠点として広く発信し、交流人口の増加を図る目的で平成30年度から令和2年度まで3年間「尾道市空き家等活用促進モデル事業」を実施。地域の活性化につながる空き家等の新しい活用方法の提案を募集し、優れた提案に対して予算の範囲内で改修等に必要の費用の一部を助成。再生された旅館の大広間や多くの物件の紹介があり、現地見学。坂の町尾道。20～40歳の移住者が増えているとのこと。加西市にも空き家が増え続ける中、手立てもしているが、なかなか難しいのが現状となっている。

【さぬき市】さぬき市民病院の建て替えについて

詳細について資料により説明があった。12年経過した今、建て替えて良かったことは、①現地建て替えて→市民の意向、患者負担の軽減、井水の確保、②個室、廊下幅等の確保→目まぐるしく変化する施設基準に対応、③免震構造→震災対応、④可変性を持たせた病棟構成→患者ニーズに応える病棟づくり⑤タイルカーペット⑥駐車場。反省すべきことは、①専用室及び多目的室の不足②病棟談話コーナーの仕切り③1階外来付近の集合トイレ不足④感染部門への動線、との説明、これからの加西市での病院建て替えに向けても参考にしてほしい。経営強化プランで誓った目指す病院像として守る、つなぐ、進化すること。新病院では、入院室は、個室を増やし、4人部屋にして十分な広さの確保。外来では、プライバシーの保護に配慮、診察室からレントゲン室や検査室までの距離を短くし、患者に負担をかけない構造にしたとのこと。

セミオープンシステム及び院内助産システムについても説明があり、院内助産の分娩室も

完備、見学をさせていただいた。産後ケア事業も充実している。新加西病院にも産婦人科が望まれる。大変参考になった。

◎医師確保、患者増に向けた各種取り組みについて

香川大学と市が締結した連携協定に基づき協力関係の強化、また、徳島大学や自治医科大学との連携を継続。臨床研修病院として診療科ごとに工夫を凝らした魅力あふれる研修プログラムの作成。専攻医（後期研修医）を3人以上雇用する体制の維持。香川大学等の現役学生に対して、へき地診療所への実地体験を含めた研修内容を常に充実させるなど。課題は、現段階で消化器内科、循環器内科等の医師不足になっている。

【丸亀市】生活困窮者支援事業（あすたねっと）について

丸亀市自立相談支援センター「あすたねっと」は、経済的な問題、就労に関すること、ひきこもりなど、さまざまな生活問題を抱えた方や家族のための相談窓口で、2015年4月1日より施行された「生活困窮者自立支援法」の実施にあたり、丸亀市から委託を受け事業を開始している。自立支援ネットワークをきちっとしており、細やかな分析がされていた。「あすたねっと」での相談の流れは、まず、不安や心配事を一緒に整理、一つずつ課題を解決していくための計画、今の生活が少しでも良くなれるような流れとなっていた。相談内容は、仕事、健康、家族の問題、債務、住居となっていた。若い人もだが、団塊の世代が抱える問題も多く、事例の説明もあった。子ども食堂について、この6月から地域でも立ち上げる予定なので、質問もさせていただき参考になった。市役所で説明を聞いた後、市街地の空き店舗を利用して、全ての人々が気軽に集える「みんながオルデ通町」を見学させてもらった。

「所感」 高見博道

【広島県 東広島市】

ビジネスサポート「Hi-Biz」について

Hi-Biz の目的は「お金をかけずに企業の強みを引き出して売上向上につなげる」というビズモデル型支援ということですが、「販路開拓」「新商品開発」「新分野進出」の3つの観点から具体的なアイデアを相談者に提供して支援を行っているようです。

既に行われていることもあります。加西市でも新規に起業を考えている方、また、新たな企業展開を考えている法人などにそれぞれに合った支援の仕方を考えることが重要だと感じました。

【広島県 尾道市】

空家等活用推進モデル事業の取組みについて

NPO 法人 尾道空家再生プロジェクトの代表のお話を聞きました。元々はご本人が空き家を探して、その空き家活用から始まったようですが、現在は行政の方から依頼もあり、尾道市内の一画について担当されています。

お話の中で古民家等は解体してしまうとそれで何もかも無くなってしまいます。それを解体せずどのように価値を見出して再生していくのが大事なのかというのを大変強く感じました。再生への柱として、建築、アート、観光、環境、コミュニティ、この5つが大事であるとお考えでした。

加西市でも、空き家対策は重要な課題ですが、行政だけでは限界があります。空き家の価値観を見出せる人の協力が必要だと感じました。

【香川県 さぬき市】

さぬき市民業院の建て替えについて

医師確保、患者増に向けた各種取り組みについて

さぬき市では、平成の合併に伴い発足する際、地元病院をさぬき市民病院として誕生させている。そして、その後8年から10年後に新病院が建設完成したようですが、建設場所については移転の予定だったのが地元より現地建替えの請願があり現地建替えになったようである。説明の中では、現地建替えにより診療数の減はあまり多くなかったとの説明であったが、完成後入院患者等の移動なども考え診療は一部控えたとの話でした。あと、古い建物の解体工事の粉塵が大変問題であったとのことでした。現在の問題としては、全館トイレが個室のみのため、利用者から不満の声が出ているとのことでした。また、出産については大学との連携したセミオープンシステムと院内助産システムを行われている。院内助産の分娩室は畳敷きの部屋があり利用者からは好評とのことでした。分娩時も照明を薄暗くして安心して出産していただけるように配慮しているとのことでした。

今後、加西市でも新病院の建設予定がありますが、利用者の目線に立った設計を行ってほしいと思います。特に出産については医師確保が難しいところではあるが、普通分娩の対応は考えから外して欲しくないと感じた。

【香川県 丸亀市】

生活困窮者支援事業（あすたねっと）について

丸亀市において生活困窮者自立支援法に基づき、自立相談支援事業と家計改善支援事業を丸亀市社会福祉協議会（あすたねっと）が、就労準備支援事業を萬象園とさぬき自立支援ネットワークが生活困窮世帯の子どもに対する学習・生活支援事業を丸亀市福祉事業団が委託を受けて事業を行っている。

その中で生活困窮者支援事業（丸亀市自立相談支援センターあすたねっと）の活動についてお聞きしたが、複合的な課題を抱える世帯に対して、寄り添った相談を受け、それぞれに合った支援を提供するのにご苦労があるのを感じた。加西市でもそうであるが、相談内容が多岐にわたり根気のいる事業であると感じた。

説明の後、活動拠点の現場視察（みんながオルデ通町）も行ったが、いろいろな活動団体が日替わりで利用しており、活力を感じた。

加西市でも支援が必要な人が一人で悩まないように全力で取り組んでいただきたいと思います。そのためにも、プライバシーに配慮した相談窓口の充実が必要と考えます。

「所感」 森田博美

① 広島県東広島市『ビジネスサポート「Hi-Biz」』について

市制 50 周年を迎えて、第 5 次総合計画のまちづくり大綱の一環として、きめが細かい充実した事業展開で、相談者には有り難い有効で有益な起業や創業につながっている。運営経費の国庫補助（半額）も魅力があるが、来年度はそれが切れて、ハイビズ事業の見直しも視野に入れて検討されていくとのこと、注目していきたい。

支援体制として、「見立てる」「仕立てる」「動かす」とそれぞれのフェーズにセンター長を含めてそれぞれの分野のエキスパートとサポーターの 11 名が伴走支援する取り組みは参考になる。人と機会の好循環が生み出されている場としてミライノ+での創業塾（創業者向けセミナー）・ウーマンセミナーやワークショップ等との連携も効果的と思う。

② 広島県尾道市『空き家等活用推進モデル事業の取り組みについて』

駅から 2 キロ圏内に 500 戸以上の空き家が点在しており、便所はくみ取り式で井戸水が生活用水。解体すれば再築できない。急傾斜地にある尾道の特徴。戦災も災害もなかったそうで、昔の建物群の中、活用できる物件探しに 6 年間をかけ、空き家談義は 100 回を超えたという。

チャリティーイベント、のみの市、まちづくり発表会、建築塾、空き家あるきツアー等を繰り返し、再生プロジェクトの仲間を増やすために春と夏に合宿等も開催。約 30 名の仲間ですタートしたが大きな輪となっている。空き家を見直し、建築・環境・コミュニティ・観光・アートの視点から活用範囲を拡大中とのこと。巡るのが楽しい街にするため、大型空き家の再生、文化財的価値のある空き家を、クラウドファンディング等を駆使して地域再生も目指しているのは感動的であった。

③ 香川県さぬき市『さぬき市民病院の建て替えについて』

『医師確保、患者増に向けた各種取り組みについて』

12 年前に新築されたさぬき市民病院。建設の 5 年前には市議会から 5 つの候補地が提案され、3 案にまとめたが、移転反対の嘆願書と請願が出される中、市長が 2 案を提案した。市議会特別委員会では 3 月から 11 月の間に 7 回開催審議された。診療規模を縮小、第一候補地に現在地周辺とした。行政と議会は市民の意見を受け止め、連携をしながら新病院を完成させている。完成までに策定した計画は 7 本、どれも無駄ではなかったと担当者の説明。現地建て替え、個室や廊下幅等の確保、可変性を持たせた病棟構成、タイルカーペット仕様等は良かったこと、1 階外来付近の集合便所のトイレ不足、専用室や多目的室の不足等は反省点との説明である。新加西病院の建設に向けて参考になる視察となった。

④ 香川県丸亀市『生活困窮者自立支援事業（あすたねっと）について』

必須事業に加えて、貧困の連鎖等を断ち切るための任意事業も充実している。一人で悩まずに「あすたねっと」に相談することで 7 つの事業につないでいる。相談の受付状況、分析、概説等もわかりやすく参考になった。子ども食堂・居場所への食料品や日用品の支援では、企業や団体に加えて個人からも多数あり、すごい連携だと思う。